



Cisco Unified Mobility Advantage へのユーザおよびデバイスの追加

Adding Users and Devices to Cisco Unified Mobility Advantage

初版: 2009 年 09 月 24 日

最終変更: 2010 年 01 月 09 日

Text Part Number: N/A

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

Cisco and the Cisco Logo are trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the U.S. and other countries. A listing of Cisco's trademarks can be found at <http://cisco.com/go/trademarks>. Third party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1005R)



目次

ユーザとデバイスの個別追加 1

個別のユーザの有効化 1

ユーザごとのデバイス アクセス制限 3

個別のデバイスの追加 4

ユーザによるクライアントの入手と設定の方法 6

手動によるクライアントの設定 6

iPhone クライアントへのセットアップ Eメールの再送 7

一括でのユーザとデバイスの追加と有効化 9

ユーザへの情報提供 17

ユーザに通知する情報 17

プロビジョニング Eメール メッセージの適切な処理のための Microsoft Outlook の設定 18



第 1 章

ユーザとデバイスの個別追加

- [個別のユーザの有効化, 1 ページ](#)
- [ユーザごとのデバイス アクセス制限, 3 ページ](#)
- [個別のデバイスの追加, 4 ページ](#)
- [ユーザによるクライアントの入手と設定の方法, 6 ページ](#)
- [手動によるクライアントの設定, 6 ページ](#)
- [iPhone クライアントへのセットアップ Eメールの再送, 7 ページ](#)

個別のユーザの有効化

ユーザがクライアントをインストールする前に、Cisco Unified Mobility Advantage でユーザを有効にする必要があります。

操作を行う前に

- 各ユーザが、アダプタを設定した Active Directory サーバ内にあることを確認します。
- 各ユーザについて、Active Directory に認定者名、姓、名、ユーザ ID および Eメールの各属性が設定されていることを確認します。これらの属性は Cisco Unified Mobility Advantage の Active Directory アダプタに設定されている属性と同じである必要があります。
- 各ユーザが、有効な Eメール アカウントをネットワーク上に持っている必要があります。
- Cisco Unified Mobility Advantage システムがすべて設定されていること、エンタープライズサーバが設定され、稼動すること、およびシステムでサポートされている必要な機能が有効化され、設定されていることを確認します。
- コール履歴のモニタリング機能を提供する場合、Cisco Unified Mobility Advantage でユーザを有効にする前に、各ユーザのプライマリ フォンを Cisco Unified Communications Manager の CTI ユーザ アカウントに追加します。
- Cisco Unified Mobility Advantage が動作している必要があります。

- Cisco Unified Communications Manager で、ユーザごとおよびデバイスごとの必須の設定が行われていることを確認します。
- (BlackBerry ユーザの場合) Cisco Unified Mobility Advantage で使用するための BlackBerry Enterprise Server の設定を行います。 http://www.cisco.com/en/US/products/ps7270/products_installation_and_configuration_guides_list.html で、『*Enabling Support for Clients*』ドキュメントモジュールの BlackBerry の章を参照してください。リリース 3.x クライアントとリリース 7.1 クライアントでは、手順が別であることを注意してください。

手順

- ステップ 1** Admin Portal にサインインします。
- ステップ 2** [End Users] の横の [+] を選択します。
- ステップ 3** [User Activation/Deactivation] を選択します。
非アクティブなユーザは、[Search Results] リストに表示されます。アクティブなユーザは、[Member] リストに表示されます。
- ステップ 4** [Find Users In] ドロップダウンメニューを使用して、検索するディレクトリを選択します。
- ステップ 5** 名前または名前の一部を [Search For] フィールドに入力するか、このフィールドを空白のままにして選択したディレクトリ内のすべての名前を表示します。
姓と名の両方で検索しようとして Active Directory にいることがわかっているユーザが見つからなかった場合は、名のみまたは姓のみを入力して検索を試みてください。たとえば、名に 2 つの名前が含まれているユーザを検索する場合、この方法を試してみてください。
- ステップ 6** [Search] を選択します。
検索された名前が [Search Results] ウィンドウに表示されます。
(注) [Search] では、非アクティブなユーザだけが検索されます。最大 1,000 人の非アクティブなエンドユーザを表示できます。有効にするユーザがリストに表示されていない場合は、検索条件を絞ります。アクティブなユーザを検索するには、手動でリストをスクロールする必要があります。アクティブユーザのリストは、1,000 人に限定されていません。
- ステップ 7** [Search Results] リストで、有効にする名前（複数可）を選択します。
複数の名前を選択するには、Ctrl を押した状態でクリックします。
- ステップ 8** [Add] を選択します。
ユーザがアクティブな [Member] リストに表示されます。
- ステップ 9** [Submit] を選択します。
-

ユーザごとのデバイス アクセス制限

各ユーザに対して、ユーザに関連付けられているどのデバイスでも Cisco Unified Mobility Advantage に接続できるのか、またはデバイスの International Mobile Equipment Identity (IMEI; 国際移動体装置識別番号)、Electronic Serial Number (ESN; 電子シリアル番号)、または Unique Device Identifier (UDID) に基づいて特定の電話機だけが接続できるのかを選択します。モバイル デバイスは、これらの番号のいずれかによって一意に識別されます。



制約事項

- この機能は、Cisco Unified Mobile Communicator Release 3.x クライアントでサポートされていません。システム全体でデバイス ID チェック機能を無効する場合を除き、リリース 3.x クライアントで [Allow Any Device] を [True] に設定する必要があります。
- 一部の携帯電話サービス プロバイダーでは、この機能をサポートできません。詳細については、このリリースを対象にしたリリース ノートの「Restrictions and Limitations」の項を参照してください。次の Web サイトから参照できます。http://www.cisco.com/en/US/products/ps7270/prod_release_notes_list.html

操作を行う前に

- 各ユーザを有効にします。個別のユーザのアクティブ化に関するトピックを参照してください。
- システムでこの機能を有効にします。http://www.cisco.com/en/US/products/ps7270/products_installation_and_configuration_guides_list.htmlにあるこのリリースのセキュリティに関するドキュメント モジュールで、システムの デバイス ID チェックを無効化する方法についてのトピックを参照してください。

手順

- ステップ 1 [End Users] の横の [+] を選択します。
- ステップ 2 [Search Maintenance] を選択します。
- ステップ 3 ユーザを検索します。
- ステップ 4 ユーザの [Edit] を選択します。
- ステップ 5 [Device Identity Maintenance] を選択します。
- ステップ 6 次の設定を行います。

オプション	値
[Allow Any Device]	次の場合は、[True] を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> このユーザの資格情報でどのデバイスでも接続できるようにする場合。

オプション	値
	<ul style="list-style-type: none"> このトピックの「制限事項」で説明されているように、サービスプロバイダーがこの機能をサポートしていない場合。 ユーザがクライアントアプリケーションのリリース 3.x を使用する場合。 <p>ユーザが指定する固有の識別番号を持つ場合のみ、電話の接続を可能にするために [False] を選択します。</p>
[IMEI/ESN/UDID Number]	<p>上記で [False] を選択した場合は、携帯電話の固有の識別番号を入力します。入力しないと、ユーザは接続できません。</p>

ステップ 7 [Submit] を選択します。

個別のデバイスの追加

各ユーザに対し、電話機を Cisco Unified Mobility Advantage に追加します。

操作を行う前に

- クライアントソフトウェアの .oar ファイルを Cisco Unified Mobility Advantage にアップロードします。 http://www.cisco.com/en/US/products/ps7270/products_installation_and_configuration_guides_list.html で『*Enabling Support for Clients*』ドキュメントモジュールを参照してください。
- [Handset Platform Management] で、追加するデバイスがサポートされているデバイスタイプであることを確認します。
- 各デバイスのユーザをアクティブにします。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Mobility Advantage Admin Portal にサインインします。
- ステップ 2** [End Users] の横の [+] を選択します。
- ステップ 3** [Search Maintenance] を選択します。
- ステップ 4** ユーザを検索します。
- ステップ 5** ユーザの [Edit] を選択します。
- ステップ 6** [Add Phone] を選択します。
- ステップ 7** 必要な情報を入力または選択します。

オプション	説明
[Country]	サービスプロバイダーの国を選択するか、 [Other] を選択します。
[Service Provider]	電話のサービスプロバイダーを選択するか、 [Other] を選択します。
[Phone Make/Model]	デバイスタイプを選択します。
[Language]	言語を選択します。 デバイスタイプによっては、サポートされていない言語もあります。
[Phone Number]	モバイルデバイスの電話番号を入力します。 この番号は、Cisco Unified Communications Manager でデバイスを設定したときに [Mobile Identity] に入力した Destination Number と厳密に一致する必要があります。 番号のみを入力します。オプションとして番号の前にプラス記号 (+) を付けることができます。 電話番号はすべて、Cisco Unified Mobility Advantage で一意である必要があります。

- ステップ 8** Admin Portal で [Next] を選択します。
ユーザは、使用するクライアントリリースのユーザマニュアルを参照して、デバイス上にクライアントアプリケーションをセットアップする必要があります。

ユーザによるクライアントの入手と設定の方法

デバイス	クライアントの入手	設定
iPhone	Apple App Store より入手	電話機が追加されると、ユーザは必要な設定を含んだ E メールを自動的に受信します。ユーザは E メールメッセージを iPhone で開き、リンクをタップすると、クライアントのシステムへの接続が自動的に設定されます。
BlackBerry	BlackBerry Enterprise Server を通じて入手	BlackBerry ユーザは、必要な設定を含んだ E メールメッセージを自動的に受信します。BlackBerry デバイスにメッセージが到着した後、ユーザがクライアントを起動すると、必要な設定が E メールメッセージから自動的に取得されます。
Nokia Symbian Windows Mobile	Cisco Unified Mobility Advantage User Portal より入手	Nokia Symbian ユーザは、ユーザ マニュアルの手順に従います。 Windows Mobile ユーザはユーザ マニュアルの手順に従って手動で設定値を入力します。
すべてのデバイス	--	ユーザは User Portal の情報をもとに、クライアントアプリケーションに設定値を手動で入力できます。

すべてのクライアントのユーザ マニュアルは http://cisco.com/en/US/products/ps7271/products_user_guide_list.html で入手できます。

手動によるクライアントの設定

必要に応じて、クライアントがサーバに接続するための情報を手動で入力することができます。

操作を行う前に

ユーザ パスワードを入力します。ユーザ パスワードは、Active Directory から入手します。

手順

- ステップ 1 [End Users] の横の [+] を選択します。
 - ステップ 2 [Search/Maintenance] を選択します。
 - ステップ 3 ユーザの [Edit] を選択します。
 - ステップ 4 青い [Info] ボタンをクリックします。
 - ステップ 5 デバイス上で、クライアント アプリケーションを起動します。
 - ステップ 6 クライアント アプリケーションにユーザのユーザ名とパスワードを入力します。
 - ステップ 7 コンピュータ上で、[Admin Portal] の [Phone Registration Information] を確認します。
 - [Server Address]
 - [Server Port]
 - [Phone Number]
-

iPhone クライアントへのセットアップ Eメールの再送

ユーザに対して iPhone デバイスを追加したが、セットアップ Eメールがユーザの手元がない場合、Eメールメッセージを再送することができます。

手順

- ステップ 1 [End Users] の横の [+] を選択します。
 - ステップ 2 [Search/Maintenance] を選択します。
 - ステップ 3 ユーザの [Edit] を選択します。
 - ステップ 4 iPhone 回線の青い [Info] ボタンをクリックします。
 - ステップ 5 [Re-send Provisioning Email] セクションまでスクロールします。
 - ステップ 6 iPhone クライアントを選択します。
 - ステップ 7 [Send] を選択します。
-



第 2 章

一括でのユーザとデバイスの追加と有効化

操作を行う前に

ユーザを追加するための一般的な前提条件として、次の手順を実行します。

- 各ユーザが、アダプタを設定した Active Directory サーバ内にあることを確認します。
- 各ユーザについて、Active Directory に認定者名、姓、名、ユーザ ID および E メール の各属性が設定されていることを確認します。これらの属性は Cisco Unified Mobility Advantage の Active Directory アダプタに設定されている属性と同じである必要があります。
- 各ユーザが、有効な E メール アカウントをネットワーク上に持っている必要があります。
- Cisco Unified Mobility Advantage システムがすべて設定されていること、エンタープライズサーバが設定され、稼動すること、およびシステムでサポートされている必要な機能が有効化され、設定されていることを確認します。
- コール履歴のモニタリング機能を提供する場合、Cisco Unified Mobility Advantage でユーザを有効にする前に、各ユーザのプライマリ フォンを Cisco Unified Communications Manager の CTI ユーザ アカウントに追加します。
- Cisco Unified Mobility Advantage が動作している必要があります。
- Cisco Unified Communications Manager で、ユーザごとおよびデバイスごとの必須の設定が行われていることを確認します。
- (BlackBerry ユーザの場合) Cisco Unified Mobility Advantage で使用するための BlackBerry Enterprise Server の設定を行います。 http://www.cisco.com/en/US/products/ps7270/products_installation_and_configuration_guides_list.html で、『Enabling Support for Clients』ドキュメント モジュールの BlackBerry の章を参照してください。リリース 3.x クライアントとリリース 7.1 クライアントでは、手順が別であることに注意してください。

一括管理に固有の前提条件を実行します。

- 簡単で一般的なユーザとデバイスのサンプルを手動で追加します。これにより、手順の詳細を理解するとともに、予定の作業が実際に実行可能であることを確認します。
- デバイスを追加する場合は、次の手順を実行します。

- 現在の .oar ファイルをアップロードしたことを確認し、サポートする国、サービスプロバイダー、デバイスを選択します。詳細については、http://www.cisco.com/en/US/products/ps7270/products_installation_and_configuration_guides_list.htmlで『*Enabling Support for Clients*』ドキュメント モジュールを参照してください。
 - このプロセスが完了すると、BlackBerry ユーザおよび iPhone ユーザに対し、アプリケーションをアクティブ化するための手順を含んだ E メールメッセージが送信されます。このようなメッセージが届くことをユーザに事前に伝えてください。 [ユーザに通知する情報, 17 ページ](#)も参照してください。
- デバイス識別情報を確認するかどうか、確認する場合はどのように実行するかを指定します。詳細については、http://www.cisco.com/en/US/products/ps7270/products_installation_and_configuration_guides_list.htmlにあるこのリリースのセキュリティに関するドキュメント モジュールで、ユーザとクライアントのセキュリティに関する項を参照してください。
 - デバイスを追加し、デバイス ID チェックを有効にする場合、各デバイスについて必要な ESN、IMEI または UDID 番号を入手します。
 - Cisco Unified Mobility Advantage を起動します。
 - Microsoft Excel で、このドキュメントのマクロを有効にします。
- これにより、Cisco Unified Mobility Advantage の設定に基づいて許可された値のみが、データとして入力できるようになります。また値を入力する代わりに、リストから選択できるようになります。
- 場合によっては、このファイル内のマクロだけでなく、すべてのマクロを有効にする必要があります。
- 手順については、ご使用のバージョンの Microsoft Excel のマニュアルを参照してください。
- 必要に応じて、次の手順を実行してください。

目的	前提条件
<ul style="list-style-type: none"> • ユーザの有効化 • 各ユーザの [Allow Any Device] 設定の更新 	すべてのユーザが Active Directory で設定されていることを確認します。
デバイスの追加	各ユーザは Cisco Unified Mobility Advantage でアクティブにする必要があります。 .oar ファイルをアップロードし、サポートする国、サービスプロバイダーおよびデバイスを選択したことを [Provisioning Management] で確認します。
一度の操作でのユーザの有効化とデバイスの追加	.oar ファイルをアップロードし、サポートする国、サービスプロバイダーおよびデバイスを選択したことを [Provisioning Management] で確認します。

目的	前提条件
	このシステムのデバイスIDチェックを有効にしていない場合、システムは [Allow Any Device] の選択を無視します。

この操作ではまた、すべての電話番号およびデバイス ID がシステム内で一意であり、入力した国、サービスプロバイダー、デバイスの組み合わせが、サポート対象としてすでに選択されている組み合わせと一致することが確認されます。



ヒント

一部のユーザがすでにアクティブ化されている場合、[Add Users & Devices] を使用して、非アクティブなユーザのアクティブ化とすべてのユーザへのデバイスの追加を1つの操作で実行することができます。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Mobility Advantage Admin Portal にサインインします。
- ステップ 2** [End Users] の横の [+] を選択します。
- ステップ 3** [Bulk Administration] を選択します。
- ステップ 4** 実行する操作を選択します。
- ステップ 5** ダウンロードする Excel テンプレートファイルを選択して、コンピュータに保存します。
- ステップ 6** スプレッドシートを開きます。
- ステップ 7** マクロが有効であることを確認します。
- 3 行目の [Allow Any Device] 列をクリックします。
 - セルの横のドロップダウンリストを示す矢印を探します。
 - 矢印をクリックします。
 - [Yes] または [No] を選択するリストボックスが表示されれば、マクロは有効です。この手順の次の番号の説明に進みます。
 - [Yes] または [No] を選択するリストボックスが表示されない場合、マクロは有効ではなく、有効にする必要があります。次のステップに進みます。
 - ファイルを閉じます。
 - マクロを有効にする手順については、Excel のオンラインヘルプを参照してください。このドキュメントのマクロだけでなく、すべてのマクロを許可する必要があります。
 - マクロを有効にした後で、Excel テンプレートファイルの新しいコピーをダウンロードします。
- ステップ 8** 次の中から、設定が必要な列を判断します。

目的	設定する列
• ユーザの有効化	[User ID] [Allow Any Device] (オプション)

目的	設定する列
<ul style="list-style-type: none"> 各ユーザの [Allow Any Device] 設定の更新 	
デバイスの追加	[User ID] [Phone Number] [Country Name] [Provider Name] [Phone Model] [Language Name] [Device Identity]
ユーザおよびデバイスの追加	[User ID] ユーザがまだアクティブでない場合、この操作はユーザおよび残りの情報を追加するために使用します。 ユーザがすでにアクティブな場合、この操作は残りの情報を追加するために使用します。 [Allow Any Device] (オプション) [Phone Number] [Country Name] [Provider Name] [Phone Model] [Language Name] [Device Identity]

ステップ 9 テンプレートに情報を追加します。

重要

- データと見出しを分ける線の下に行に、データの最初の行を入力します。見出しテキストの下、分離線の上に空の行が存在する場合があります。この行にはデータを入力しないでください。
- 他のソースから情報をカットアンドペーストする場合、国、サービスプロバイダー、デバイスおよび言語が無効な組み合わせにならないよう注意してください。
- データの追加以外はテンプレートを変更しないでください。たとえば、列シーケンスや名前を変更したり、見出し行の上に行を追加したりしないでください。

オプション	説明
[User ID]	各ユーザ名は Active Directory の既存のエントリに厳密に一致する必要があります。

オプション	説明
[Allow Any Device]	[Yes] または [No] を選択します。 システム レベルで [Enforce Device ID Checking] が有効でない場合、[Allow Any Device] への入力システムに保存されますがアクティブにはなりません。
[Phone Number]	モバイル デバイスの電話番号です。 この番号は、Cisco Unified Communications Manager でデバイスを設定したときに [Mobile Identity] に入力した Destination Number と厳密に一致する必要があります。 番号のみを入力します。オプションとして番号の前にプラス記号 (+) を付けることができます。 電話番号はすべて、Cisco Unified Mobility Advantage で一意である必要があります。 16 桁以上の番号を入力するには、列を右クリックして [Format cells] を選択します。[Numbers] タブを選択してから、[Category] リストで [Text] を選択します。
[Country Name]	表示される順に各オプションを選択する必要があります。これにより、後続の選択のためのオプションが表示されます。 Admin Portal の [Provisioning Management] ページで有効にしたオプションのみが表示されます。 各オプションの選択リストが表示されない場合は、Microsoft Excel のマクロが有効にされていません。スプレッドシートを保存して閉じ、マクロを有効にしてからこの手順に進みます。それでもまだ選択リストが表示されない場合、このテンプレートのコピーを削除し、テンプレートの新しいコピーをダウンロードする必要があります。 Excel と同じ機能を使用して、複数行に同じ値を入力することもできます。
[Provider Name]	
[Phone Model]	
[Language]	各エントリで選択した言語が、選択した国、サービスプロバイダーおよび電話モデルとの組み合わせで利用可能かを確認します。不確かな場合は、目的の国、サービスプロバイダーおよび電話モデルの電話機を手動で追加し、目的の言語が利用可能かどうか確認します。
[Device Identity]	デバイス ID は、各デバイスの IMEI、ESN または UDID 番号です。 番号、A ~ F の文字、スペース、ダッシュ (-)、スラッシュ (/) およびピリオド (.) のみを入力します。

オプション	説明
	<p>アクティブなユーザにのみデバイスを追加できます。</p> <p>各デバイス ID はシステム内で一意である必要があります。</p> <p>注意 各ユーザに対し、正確なデバイス ID を入力するよう注意してください。すでにシステム内に番号が存在する場合、別のユーザに割り当てる前に手動で削除する必要があります。</p> <p>「off-by-one-row」エラー、つまり、多数のユーザをアップロードする際に、すべてのユーザに対し、誤ってシーケンス内の前のまたは後のユーザのデバイス ID を入力する状況が発生しないように注意してください。</p> <p>16桁以上の番号を入力するには、列を右クリックして [Format cells] を選択します。[Numbers] タブを選択してから、[Category] リストで [Text] を選択します。</p>
[Processed?]	この列には情報を入力しないでください。
[Action Results]	この列には情報を入力しないでください。

ステップ 10 テンプレート ファイルを保存して閉じます。

Unicode 文字の場合、[Save As] を選択し、ファイルタイプに [Unicode] を選択します。

ステップ 11 Admin Portal の [Bulk Administration] ページに戻ります。

ステップ 12 [Browse] を選択して、入力済みのテンプレート ファイルを選択します。

ステップ 13 [Submit] を選択します。

ステップ 14 データのすべてのアップロードが完了した場合を除き、各エントリの結果を表示するリンクを選択します。

ステップ 15 スプレッドシートの右側の 2 列で、各エントリのステータスを確認します。

[Processed?] 列に [Failed] と表示されている行は、アップロードが完了していません。

ステップ 16 [Action Results] 列に表示されたすべての問題を修正します。

1 つの行に複数の問題がある場合は、問題がセミコロン (;) で区切って表示されます。

最後の 2 列のテキストは変更しないでください。[Processed?] 列に何も表示されていないか [Failed] と表示されている行のみアップロードされます。

処理が完了したエントリを削除する必要はありません。それらのエントリは、以降のアップロードで無視されます。

ステップ 17 ファイルを保存します。

ステップ 18 訂正済みのテンプレートを再度アップロードします。

[Skipped] が表示されている行は、以前の作業でアップロードに成功し、今回のアップロードでは無視される行です。

アップロードに成功したユーザのデバイス ID を変更すると、アップロードによって古いデバイスに加えて新しいデバイスが追加されます。

ステップ 19 すべてのマクロを有効にしている場合は、セキュリティ上の理由からすべてのマクロを無効にします。



第 3 章

ユーザへの情報提供

- ユーザに通知する情報, 17 ページ
- プロビジョニング E メール メッセージの適切な処理のための Microsoft Outlook の設定, 18 ページ

ユーザに通知する情報

Cisco Unified Mobile Communicator を使用するために必要な、次のようなツールと情報をユーザに提供してください。

- サーバまたはクライアントリリースのリリースノートまたは ReadMe で公開された最新の、ユーザに関係のある情報。
リリースノートは、http://www.cisco.com/en/US/products/ps7270/prod_release_notes_list.html から入手できます。
ReadMe ファイルは、各ソフトウェアリリースに付属しています。サーバソフトウェアは、<http://tools.cisco.com/support/downloads/pub/Redirect.x?mdfid=281001413> から入手できます。
クライアントソフトウェアは、<http://tools.cisco.com/support/downloads/pub/Redirect.x?mdfid=281001428> から入手できます。
- ユーザマニュアルまたはマニュアルへのリンク。 http://www.cisco.com/en/US/products/ps7271/products_user_guide_list.htmlを参照してください。ユーザマニュアルのセットは、デバイスタイプによって若干違いがあります。
- Cisco Mobile または Cisco Unified Mobile Communicator、および User Portal にサインインするためのユーザ ID およびパスワード。
- User Portal の URL。
- マニュアルで説明されているインストール手順。Cisco Unified Mobile Communicator のセットアップを行う場合、特に自分で手順の一部を実行済みの場合はこの手順に従う必要があります。

- ユーザが電話機を追加し、プロビジョニングする場合の、また Dial via Office や会議のためのコールバック番号を指定する場合の電話番号の入力形式。たとえば、Cisco Unified Communications Manager で電話番号やルーティングパターンがどのように設定されているかによって、国番号、カッコ、ハイフンまたはスペースの有無が決まります。
- (iPhone および BlackBerry デバイスのユーザの場合) SMTP サーバへの接続を設定したときに入力した管理者の E メールアドレス、および Microsoft Outlook でプロビジョニングやアラートのメッセージが迷惑メールフォルダに配信されないようにするための Outlook の設定方法。
- ボイスメールのユーザ名およびパスワードがクライアントにサインインするための資格情報と同じではない場合、ボイスメールの資格情報を User Portal に入力する必要があることをユーザに伝えます。
- 導入環境に Cisco Unified MeetingPlace を含む場合：
 - 会議スケジューラで、既存の会議（定期的な会議を含む）をスケジュール変更すると、iPhone や BlackBerry Cisco Mobile クライアントの会議機能に必要なリンクを持つ、更新された会議通知がユーザに送信されます。
 - iPhone ユーザに対し、クライアントの [Settings] にコールバック先 ([Callback To]) の電話番号を入力する際の形式を指示します。たとえば、Cisco Unified MeetingPlace から外部の電話にアウトダイヤルするには、番号の前に9をつける必要があるなどの指示を行います。
- 導入環境に Dial Via Office が含まれる場合、ユーザは使用するクライアントでコール設定をチェックして、想定どおりにクライアントが動作していることを確認します。
- BlackBerry 用 Cisco Mobile のユーザで、BlackBerry Mobile Voice System (MVS) もインストール済みの場合、Cisco Mobile の [Settings] で Mobile Connect (Single Number Reach) を無効にする必要があります。

プロビジョニング E メール メッセージの適切な処理のための Microsoft Outlook の設定

Outlook がプロビジョニング メッセージを迷惑メールとして処理しないようにします。

手順

- ステップ 1 お使いのコンピュータで Microsoft Outlook にサインインします。
 - ステップ 2 [Tools] > [Options] を選択します。
 - ステップ 3 [Preferences] を選択します。
 - ステップ 4 [Junk e-mail] を選択します。
 - ステップ 5 [Safe Senders] を選択します。
 - ステップ 6 [Add] を選択します。
 - ステップ 7 管理者から受け取った E メールアドレスを入力します。
 - ステップ 8 [OK] を選択します。
 - ステップ 9 もう一度 [OK] を選択します。
 - ステップ 10 常に迷惑メールボックスをチェックし、必要に応じて、プロビジョニング中は迷惑メール防止機能を無効にします。
-

